

令和3年度 事業報告書

社会福祉法人 肥後自活団

障害児入所施設の経営、障害者支援施設の経営及び障害福祉サービス事業の経営は、コンプライアンス(法令遵守)を徹底し事業展開ができたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、行事等の中止や活動・生活の見直し支援も含めて対応を行った。今後の検討を要する事項もあり、令和4年度につなげる。また、地域の福祉活動についても、コロナの影響でほとんどを中止せざるを得なかったが、事業経営の透明性を図ることは必要である。なお、法人として虐待防止委員会、支援向上委員会等を開催し、またSDGsに取り組み、利用者支援の向上と支援の質の確保に努めた。

1. 肥後自活団業務

法人の理事会を年4回、5月、6月、11月、3月に開催し、定時評議員会は6月に開催した。事業報告、決算及び事業計画、予算並びに事業経営の課題等や役員の選任等を審議して承認、了承を得た。新型コロナの影響で、内部経理監査は12月の1回、監事監査は令和2年度分を5月に書面(郵送)により実施した。理事、監事及び評議員は、役割を認識してガバナンスを強化し、経営している。ホームページ等による広報啓発も行い、事業経営の透明性の確保に努めた。正職員は計66名で事業運営にあたり、採用2名、退職6名と異動はあったが、職員処遇全般の向上に努めた。非常勤職員を24名雇用し、サービスの質の向上に努めたが、今後の人材不足等に対応するために対策を考えて、採用、育成等を引き続き検討して実施する。また、2年以上続いている新型コロナの影響は今後も少なからず続くと思われるため、工夫していきたい。

2. 大江学園業務

入所部門

	3年										4年			月平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
措置	39	39	39	38	38	38	38	38	39	39	39	39	38.6人	
契約	19	19	19	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17.9人	
計	58	58	58	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56.5人	

令和4年3月末までに高校3年生6人のステップアップ支援を無事に完了することができた。(年度はじめから、措置延長・契約延長した2人については令和3年6月末までにステップアップを完了できた。)

昨年度に入所定員を60人にした。今年度は、年間を通してみると月平均56.5人と定員は充足できなかったが、純然たる児童施設の維持、通過施設としての役割を果たせた。依然として子どもたちを取り巻く環境は悪化しており、地域社会からのニーズは引き続き高いと感じる。特に、児童相談所からの依頼による一時保護機能として、今年度も2人の受入れを長期に行い役割を果たした。子どもたちの生活の質(QOL)の向上を図ることはもちろん、保育士をはじめとする職員のワークライフバランスの充実を図り、人材確保につなげたかったが、残念ながら年度末に5人の職員が退職した。

小規模ユニット化への取組も行えた。所管課との定員変更(令和4年度当初50人)の事務的協議、昭和寮のユニット化へ向けた助成金の申請を進めた(令和4年度において、1,000万円助成が決定した。社会福祉法人清水基金)。

再度、児童施設としての役割機能強化に注力して、地域の中で必要とされる施設づくりを目指した。未就学児の個々の発達段階に応じた小学校への入学準備にも力を注いだ。子どもたち1人ひとりの権利を尊重する旨の勉強を行い、身体拘束や虐待防止をはじめとしたコンプライアンスの強化にも力を入れた。思春期を迎えた子どもたちの悩み相談・性教育に全職員で取り組み力を入れた。高校生については、個々の発達段階に応じた支援を学校と更に連携強化し、社会性を身につけさせステップアップ支援を早い段階から行うようにした。高校卒業、そして退園後のアフターフォロー支援(追跡調査)にも教育機関との連携を図り、力を注いだ。今後も制度の隙間にある18歳から20歳到達までの支援を居住支援法人として、幅広く行っていく。また、多くの方々に周知してさらに確立していきたい。

居宅部門の充実も継続して行い、日中一時支援事業では前年度同様の利用を頂いたが、新型コロナウイルス感染拡大防止(入所の2度のクラスター発生により)のため利用を控えて頂く措置を講じた。どうにか地域福祉のニーズにも応えることができた。地域の中での公益的取り組みにも貢献できた。今後も地域にある児童施設として、より地域に貢献できるよう相談支援機能の充実、そして地域の他の社会資源との連携強化、ネットワーク化を進め地域から期待される施設を目指したい。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために2年続けて翻弄されているが、子どもたちの健やかな成長の保障、安心安全を確保することができた。

3. 第二大江学園業務

令和3年度も、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)による障害者支援施設で、施設入所支援と生活介護のサービスを提供した。また、通所(生活介護)及びグループホームの事業も継続し、地域の中で基盤となる施設として、短期入所や日中一時支援もできる限り行った。

施設入所は、年間を通して44人の入所で、コロナ禍であったが特に大きな病気をすることもなく1年を過ごせた。入所利用者の平均年齢は約50歳となったため、加齢に伴う健康管理、体調の維持の難しさが今後増していくと思われる。医療機関との連携や通院、入院の対応などを工夫していきたい。今年度も新型コロナの影響を受けて、利用者の外泊、外出及び面会等に規制をかけなければいけなかったため、利用者にも精神的にもつらい思いをさせた。今後の検討課題である。グループホームについては、4月に18歳の新規入居者(女性)があり、13人の利用者がコロナ対策をとりながら通所等を行い1年を過ごした。通所による生活介護も継続して行い、送迎等により支援を充実させ、年間を通して約18人の利用者が日々かわりで利用した。また短期入所及び日中一時支援は、地域の中のセーフティネット事業として可能な限りの対応を行っているが、コロナの影響で中止せざるを得ない時もあった。

相談センターは、計画相談等をコロナ禍のため電話のみで対応するケースが多く、福祉サービスの利用を促す等、地域相談にも貢献している。生計困難者レスキュー事業もコロナ禍ためか、相談は数件あったが事業遂行にまでは至らなかった。いろいろ工夫して食材支援等の援助を行って地域における公益的な取組に今後も貢献していきたい。

また、令和3年4月は報酬改定等であったが、給付費収入については前年と大きく違わなかった。令和3年度も虐待防止の取り組みや自己評価をするなど支援の質の向上に努めた。サービスの質の向上や危機管理、いろいろな知識習得に支援向上委員会等の委員会活動を

を利用して進め、さらにSDGs持続可能な開発目標にも取り組んだ。

令和3年度末現在の状況は、施設入所44人、生活介護(入所・通所含む)約80人及びグループホーム13人であり、昼夜分離した総合的な施設として事業を展開している。

4. 生活及び活動の状況

給食サービスは、栄養管理(栄養バランス、生活習慣病予防)に基づいた普通食をはじめ、糖尿病や肥満等にもできる限り対応した。さらに、利用者個別に栄養ケアマネジメントを実施した。利用者の楽しみとして、弁当や誕生会等を可能な限り実施し、衛生管理では食中毒防止、衛生改善に努めた。

保健面では、6月と11月の定期健康診断を実施し、新型コロナの中での健康管理を難しいが行った。インフルエンザの予防接種や疾病、外傷等には通院、入院で対応し、嘱託医の健康管理指導のもと、健康維持増進に努めた。新型コロナウイルス対策については、保健所等と協力して理解を深め、また対策等を検討して法人のリスク管理を行った。衛生面では、入浴を原則として毎日行い身体を清潔にし、伝染性疾患等の予防にも努め、学園内の清掃、整理整頓を心がけ、除草や樹木剪定伐採等の設備整備で環境緑化の向上を図った。

日中活動の内容は、フルーツキャップなどの軽作業、リサイクル及びEM活動並びに制作・個別活動を行い、歩行訓練も取り入れて新型コロナの影響がある中でも可能な限りの充実を図った。ただ、余暇活動としてのクラブ活動等は部署別に可能な限り行い、班に分けて利用者をドライブに連れて行くなど利用者の精神面のケアにも努めた。行事については、お見知り会、地域ふれあい祭り、クリスマス行事及び餅つき交流会はやむなく中止(縮小)としたため、地域との交流等がなかなかできなかった。利用者の個別の買物等、社会参加活動を行った。

スポーツ、レクリエーション等への参加は、くまもと障がい者スポーツ大会や施設親善スポーツ大会が新型コロナの影響で中止になったため、この1年はできなかった。

危機管理対策では、非常災害に備えて委員会等を実施し、啓発に努めた。

生活及び活動の支援は、個別支援計画を基に福祉サービスを提供することが重要であり、サービス管理責任者等を中心にしての連携した福祉支援は行った。

5. 職員の資質向上

職員研修は、OJTはもちろん、園内会議として虐待防止委員会(年4回)及び支援向上委員会(年6回)を計画し、職員の意識改革に努めているが、新型コロナの影響で少人数による方法等制限された部分もあり工夫を要した。また、利用者の安全面・衛生面を話し合い勉強して、資質向上を図った。OFF-JTは、経営協や施設協会が催す研修会が中止になったり、一部オンライン開催になるなど、一年間を通して参加がなかなか困難であった。

外部講師に依頼して中堅職員の研修を約10名の職員が受けた。(令和3年度に2回、令和4年度に6回)社会福祉支援専門のプロとして自分自身を磨けるように対応するため、継続して行うこととする。1人ひとりが高い意識を持ち、福祉サービスを展開していくことで、またSDGsも意識して、法人及び施設全体の福祉サービスの質の向上に努めることとする。

福利厚生面は、職員親睦会による慶弔や福利厚生センター(ソウエルクラブ)への加入で、永年勤続表彰などを受けた。

人事評価制度も継続して行っており、目標をもって業務を行い、評価を行うことによって各自を成長させ、給与処遇や異動等に生かして、職員育成の一翼を担っている。

6. 地域交流活動

地域ふれあい祭り、もちつき交流会等が新型コロナの影響で中止となり、家族・学校関係者及び地域住民の参加しての活動開催が2年連続で難しかった。ボランティア等の受入れが難しい状況が続くと思われるが、検討(工夫)して今後は進めていきたい。

実習生の受入れについても、新型コロナの影響で延期または中止にせざるを得ない状況が続き、学校側とも協議を重ねて可能な限り対応した。福祉を担う人材育成、確保にもつながる大事な事業であり、地域の中での社会福祉施設としての使命を果たす意味でも、頑張っって対応していくこととする。

オハイエ音楽隊や地域の健康体操などへの場所の提供も含めた公益的な取組も、新型コロナの影響で今年度はできなかった。

クリスマスケーキ等はプレゼントとしていただいたが、贈呈式等のふれあう活動は今年度についてはできなかった。

7. 施設整備・設備整備

- ・学園内樹木剪定伐採手入れ
- ・パソコン、プロジェクター等の機器の購入
- ・第二大江学園平和寮等エアコン修繕工事
- ・第二大江学園平和寮畳修理
- ・大江学園給食室の冷蔵庫修理購入
- ・その他